

# 日台交流日録 (13)

〔平成18年5月1日～7月28日〕

## これからの日本と台湾が見えてくる

### 5・1 台湾の不参加には納得できない

尾辻秀久・参議院議員は陳水扁総統との会  
見で、「台湾のW H O不参加には納得できな  
い。今後も全力で支援する」と述べた。尾辻  
氏は一昨年、日本が台湾の参加に賛成票を投  
じた当時の厚労大臣。

### 5・2 日本の国会へ感謝

陳水扁総統は公明党の富田茂之・衆議院議  
員らと会見し、台湾の観光客へのノービザ措  
置、台湾のW H O参加、日台の貿易協力強化  
に關し、日本の国会が支持を表明したことに  
感謝を述べた。

### 5・3 日台関係はさらに発展できる

呉釗燮・大陸委員会主任委員は泉健太・衆  
議院議員らと会見、日台は文化面で深い繋が  
りがあり、経済面でも互恵関係にあるとし、  
今後の両国関係は更に発展できると語った。

### 5・3～6 人気 の長栄交響楽団

台湾の長栄交響楽団が都内での「熱狂の  
日」音楽祭に参加。四回の公演の前売り券は

一ヶ月前に完売という人気。

### 5・4 台湾の大学で「五月祭」

静宜大学（台中県）で日本語学科の学生に  
よる「桜花五月祭」活動。屋台などを出して  
日本の縁日の情景を作り、日本食を振舞った。

### 5・6 八田技師の生涯を描く

金沢市の「八田技師夫妻を慕い台湾と友好  
の会」は台北市内で、八田與一技師夫妻の生  
涯を描く舞台劇の脚本を、李登輝前総統の秘  
書に手渡した。「水のフォルモサ」と題す  
るこの劇は、来年金沢で初演の予定。

### 5・8 八田技師生誕百二十年で講演会

台南県で八田與一技師生誕百二十年を記念  
する講演会。地元の行政、農業関係者が「八  
田先生の精神を学ぼう」と呼び掛け。蘇煥智・  
県長も舞台劇「水のフォルモサ」に關し、  
「台南公演の際は協力を惜しまない」と。

### 5・8 八田技師の墓前祭

台南県の烏山頭ダムで八田與一技師と外代  
樹夫人の墓前祭。遺族を含む日本人七十名や  
地元関係者が参列した。

### 5・14 台北賓館が一般開放へ

明治三十四年に台湾総督官邸として建てら  
れた台北賓館（迎賓館）の修復が終わり、館

内で記念式典。陳水扁総統ら政府要人、各国  
大使、市民など約千人が出席。後期ルネッサ  
ンス様式建築で一級古跡に指定されている。

### 5・15 北海道産米の出発式

北海道滝川市で輸出来出發式。「ほしのゆ  
め」など約七トンが台中市のスーパへ

### 5・17 農産品の最大輸出先は日本

林国華・農業委員会副主任委員（農水副大  
臣）が早稲田大学で講演。その中で台湾の農  
産品の最大の輸出先は日本であると強調。

### 5・18 交流の縁は二十世紀梨

日本海新聞によれば、鳥取県三朝町は、同  
県産二十世紀梨の輸出先である台中県石岡郷  
と友好交流提携の締結を目指している。

### 5・18 カボチャの契約栽培

北海道長沼町の田中農園は、台湾のスーパ  
ー裕毛屋（台中市）とカボチャを契約栽培す  
ることで合意した。

### 5・18 観光視察団を歓迎

糸魚川市の米田徹市長は、観光視察で来訪  
した台日文化経済協会の訪問団と昼食会。

### 5・18 航空、旅行関係者を招待

国際線の増便が予定される台湾のマンダリ  
ン航空や旅行業界関係者らが、観光誘致を進

める鳥取県の招きに応じ、同県内を視察。

5・20 台北市内にNOVA

NOVAが初の海外店として、台北市内に「駅前留学・中山校」をオープン。日本語コースも開設の予定。

5・20 憲法改正など警戒しない

台湾政府は「国家安全報告」を公表し、日本の憲法改正の動きについて「普通の国家」になりたいとする声が出てきた」とするに止め、警戒感を示す中韓とは一線を画した。

5・20 三県周遊コースを提案

山形、福島、新潟三県の観光行政担当者が広域観光連携推進協議会の設立総会。今年度事業計画の対象は台湾。同国の旅行代理店を招待して三県周遊コースを提案することに。

5・23 日本の支持に謝意

許世楷・駐日代表は、WHO年次総会で、台湾のWHO参加に対する日本の積極的な支持に謝意を表明した。

5・24 ビジットクイーン来道

元ミス台湾の人気女優で「ビジット北海道クイーン」の温翠蘋さんが北海道運輸局を訪れ、台湾向け観光PRへの意気込みを語った。

5・25 鳥取県が中国総領事の要求一蹴

台中県との交流を進める片山善博鳥取県知事は、中国駐大阪総領事から中止要求を受けたが、「どこと交流しようと問題ない」と一蹴。

5・29 日本でのバイク販売を強化

日経新聞によれば、台湾二輪車大手、キムコは、日本での販売台数を、昨年の約一万台から今年は一万四千台に引き上げる考え。

5・29 福島の特産品販売を視察

台湾の伝統工芸品業界が福島県へ視察団。県内の特産品販売施設などを見学。

5・29 台湾の高校生を誘客を展覧

台湾の職業高校二校の生徒計三十二人が飯田工業高校を訪れ、同校の生徒と交流した。二十年以上台湾と文化交流している飯田市では、台湾の高校生の誘客を展開している。

6・1 澎湖へ日本人が里帰り

戦前に澎湖島で生活していた日本人団体、馬公会の一行が王乾発・澎湖県長を訪問。同会は三年に一度、同県を訪問している。

6・2 石川県が観光使節団

富山新聞によると、石川県は小松―台湾便の定期便化を睨み、高雄市に初の観光使節団を派遣する。

6・3 台湾から助っ人

台湾の身障者野球のピッチャーで、少年野球からプロ選手も育てた楊騰宥氏が、神戸市で開かれた全国身体障害者野球大会で、「神戸コスモス」の助っ人として出場。

6・7～12 山陰の魅力を紹介

広島空港に台北便が毎日就航となったのを受け、島根、鳥取両県の観光組織と広島県が連携し、台湾の旅行業、マスコミ関係者を招いて山陰の魅力を紹介。

6・13 台湾人客は百二十七万人

北側一雄・国土交通相が提出した平成十七年度の観光白書によると、同年度に日本を訪れた台湾人観光客数は前年比一八%増の百二十七万人。国別では韓国に次ぎ二位の多さ。

6・10 高まる芸術交流の重要性

「台湾美術―現代の旗手5人展」の開幕式が都内で。許世楷駐日代表は「日台間では文化、芸術交流の重要性が高まっている」と。

6・12 修学旅行の交流活発化で合意

訪台した田中康夫・長野県知事は杜正勝・教育部長（文科相）と会談し、同県と台湾との間で高校の修学旅行の相互交流をこれまでに活発化することで合意した。

6・17 津軽に台湾人観光客を

台湾人観光客が少ない津軽地方をPRするため、弘前市などの観光関係者が台湾へ。

6・17 大相撲台湾巡業に向け

大相撲の台湾巡業を八月に控え、日本相撲協会の尾車親方と四人の関取が台北を訪問。

大銀杏を結う様子などを披露し、巡業に向けた雰囲気作りに努めた。

6・20 福島空港利用の観光誘致

日経新聞によると、栃木・福島両県の経済団体が連携し、福島空港を活用した台湾からの観光客誘致の強化に乗り出す。

6・20 缶チューハイの試験販売

日経新聞によると、サントリーは缶チューハイの試験販売を、台湾のセブンイレブン全店で開始する。

6・20 民主化への支持が必要

日台米の専門家によるシンポジウム「日米台安全保障対話」が都内で、席上、林佳龍・民進党幹事長は「日米関係の強化は台湾にとって喜ぶべき」と述べた。

6・21〜24 目立った日本の農産品

台北国際食品展覧会が開催。日本からの展示は八十ブースと最大規模。自治体などによる農産品の出展が目立った。

6・23 ポケモンのテーマパーク

日本の漫画キャラクター「ポケットモンスター」をテーマにした海外初のテーマパーク「ポケパーク」が台北市内に開園。

6・23 姉妹都市提携の検討を要請

岩手県奥州市の水沢青年会議所と台北県永和市の永和国際青年商会のメンバーが相原正明・奥州市長に両市の姉妹締結の検討を要請。

6・23 過去最高位のアルバム

宇多田ヒカルさんのアルバム「ULTRA BLUE」が台湾のG・Musicチャートの総合チャートで三位を獲得し、インターナショナルとしては過去最高位を記録。

6・24 日本青年会議所が高雄でシンポジウム

日本青年会議所主催の国際シンポジウムが高雄で開かれ、謝長廷・前行政院長が講演。

6・26 玉川村と鹿谷郷の交流

福島県玉川村の車田次夫村長ら同村関係者が、姉妹関係を持つ南投県鹿谷郷を訪れ、林光演・郷長と会見するなど交流を深めた。

6・26 茨城県市の議員が高雄へ

茨城県市の議会議員の一行五十一人が、高雄市議会の招きで同市を親善訪問。

6・29 大阪でマンゴー試食会

台南県は大阪市内のホテルで流通企業の関係者や主婦ら約三百人を集め、県産マンゴーの試食会。蘇煥智県長も出席した。

6・29 飛行機でフルーツPR

台湾果実をペイントした中華航空機の就航記念記者発表が都内で。「台湾フルーツ大使」の雛形あきこさんが台湾果実をPR。

7・1 中華航空が大阪と札幌へ

中華航空が大阪路線と札幌路線の定期便運航を開始。大阪路線は三十二年ぶりの復活。

7・3 世論調査で「親日」の結果

西日本新聞によると、台湾の経済雑誌「遠見」が実施した「台湾人の世界観」に関する世論調査では、「旅行したい国」「移民したい国」「感服する国」の三項目で日本が一位。

7・3 台湾の国際免許の早期承認を

台湾週報によると、このほど高橋春美・北海道知事、上田文雄・札幌市長、南山英雄・道経連会長らは北側一雄・国交相に、道内の台湾の国際運転免許の早期承認を要請。南山会長は承認実現は来夏との見方を示した。

7・3〜9 日台学生的美術展

東京学芸大学と高雄医学大学の学生的美術展が東京学芸大学芸術館で。美術への意識を

高めることと日台関係を深めることが目的。

7・4 若手議員交流の強化目指し

来日した蕭美琴・立法委員ら民進党若手議員十二名が、日台若手議員と交流。この訪日メンバーを中心に、同議連との交流窓口「民進党日台青年議員親善協会」が設立される。

7・6 台湾児童の踊りの公演

都内で桃園県の龍潭小学校の児童と同県の「彩虹舞踏団」による歌と踊りの公演。

7・6～9 台湾の政府刊行物が初出版

第十三回東京国際ブックフェアで、台湾からは民間出版社六社の他、千五百冊の政府刊行物が初出版。

7・10 台湾の小学生が靖国参拝

龍潭小学校訪日団の教師、児童、父兄ら約五十名が靖国神社を参拝。英霊奉賛日台交流会メンバーによる説明にも熱心に耳を傾けた。

7・11 台北がリニモを導入の見通し

フジサンケイビジネスアイによると、愛知万博で注目された「リニモ」が台北市に輸出される見通しに。

7・11 路線就航で観光視察

前日、中部国際空港への就航をはじめたエバー航空の社員らが、岐阜県高山市の観光地

「古い町並み」などを視察。

7・11 アイドルの話題で盛り上がり

日本文化を専攻する台湾の高校生十九名が香川県内を研修で訪れ、高松商高の生徒と交流。交流会では日本の音楽やアイドルの話題で盛り上がった。

7・12 香川県キャンペーン訪問団

チャーター便の運航促進や観光・経済交流の発展などを目的に、川北副知事を団長とする香川県キャンペーン訪問団が台湾へ。

7・13 日本時代の絵画作品展

「日本時代の台湾絵画―見出された郷土展」が福岡アジア美術館で開幕。台湾画壇の重鎮陳澄波氏らの名作を含む二十五点が展示。

7・16 台湾有事を睨み落下傘降下

陸上自衛隊第一混成団が与那国島の防災展示会で沖縄県初の落下傘降下。台湾有事を睨んだ事実上の訓練と見られる。

7・19 コンブ輸出が本格化へ

北海道新聞によると、北海道漁連は国内生産量トップを誇る道産コンブの台湾への輸出を本格化させる。

7・23 李登輝氏が揮毫の記念碑と扁額

台湾総督も務めた児玉源太郎陸軍大将の没

後百年を記念し、生誕地である山口県周南市

の児玉神社で李登輝前総統揮毫の「浩氣長存」記念碑の除幕式。神奈川県江の島の児玉神社でも同じく「児玉神社」扁額の除幕式。

7・25 日本郵船が輸送契約

日本郵船が台湾電力と輸送契約を締結。インドネシアと豪州より台湾へ約百万トンの石炭を輸送する。

7・20 最大の投資国は日本

台湾週報によると、台湾にとり日本は最大の投資国。投資件数は一九五二年～二〇〇六年五月までの累計で四千九百五十件。海外からの投資全体の二六・六%を占める。

7・25 史跡再利用のモデル

台湾の東森テレビニュースによると、彰化県鹿港鎮の日本時代の街長（町長）宿舎は文化施設として開放され、鎮の定例記者会見会場になるなど、史跡再利用のモデルとなっている。昭和十年の建設で県指定古跡

7・27～28 台湾のアイドルの野球チーム

東京、大阪で開催された第一回チャリティ芸能人対抗国際親善野球大会に台湾の人気アイドルで構成される野球チームが出場。

【永山英樹】